

宮崎県の漁港整備

(1) 概要

本県の漁港整備は、昭和26年度から平成13年度にかけて実施されてきた第1次から第9次漁港整備長期計画により、中核規模漁港の整備と併せて小規模の漁港整備を行ってきました。

平成14年度からの第1次漁港漁場整備長期計画（平成14年～平成18年度）では水産業の発展及び水産物の安定供給を図るため、環境との調和に配慮しつつ整備を進めてきました。

平成19年度からの第2次漁港漁場整備長期計画（平成19年～平成23年度）では漁港機能の増進、安全性の向上を図るため防波堤や係留施設、用地等の整備を進めてきました。

平成24年度からの第3次漁港漁場整備長期計画（平成24年～平成28年度）では東日本大震災を踏まえ「漁港機能の強化と漁村の活性化」を重点課題として整備を進めてきました。

平成29年度からは第4次漁港漁場整備長期計画（平成29年～平成33年度）により、南海トラフ等の切迫する大規模な地震・津波に備えた対応力の強化に取り組んでいます。

(2) 実施中の漁港事業

<水産流通基盤整備事業>

流通拠点漁港において安全・安心な水産物の品質確保や流通機能の強化に資する整備を行う。

○北浦漁港

<水産物供給基盤機能保全事業>*

老朽化が進行する漁港施設について、戦略的な維持管理・更新を行う。

○北浦、南浦、土々呂、門川、都農、川南、富田、青島、野島、油津、目井津、本城の12漁港

<漁港施設機能強化事業>

地震・津波や高潮・波高増大等に対する漁港の安全対策として、漁港施設の機能強化を図る。

○島野浦、門川、青島、油津、目井津、大堂津、宮之浦の7漁港

<水産生産基盤整備事業>

浅海域における漁場等に密接に関連する漁港における漁港施設を一体的に整備する事業。

○川南漁港

<漁港機能増進事業>

漁港の利用者や生産者の就労環境の改善や漁港施設の有効活用など漁港機能の増進を図る。

○島野浦、南浦、門川の3漁港（H29年度）

<港整備交付金>

地元の利用が主体となっている第一種漁港、第二種漁港において、施設の整備を行う。

○富田、市木、都井の3漁港

<農山漁村地域整備交付金>

快適な漁村環境の形成、漁村地域の活性化を図るため、緑地、広場等の整備を行う。

○油津漁港

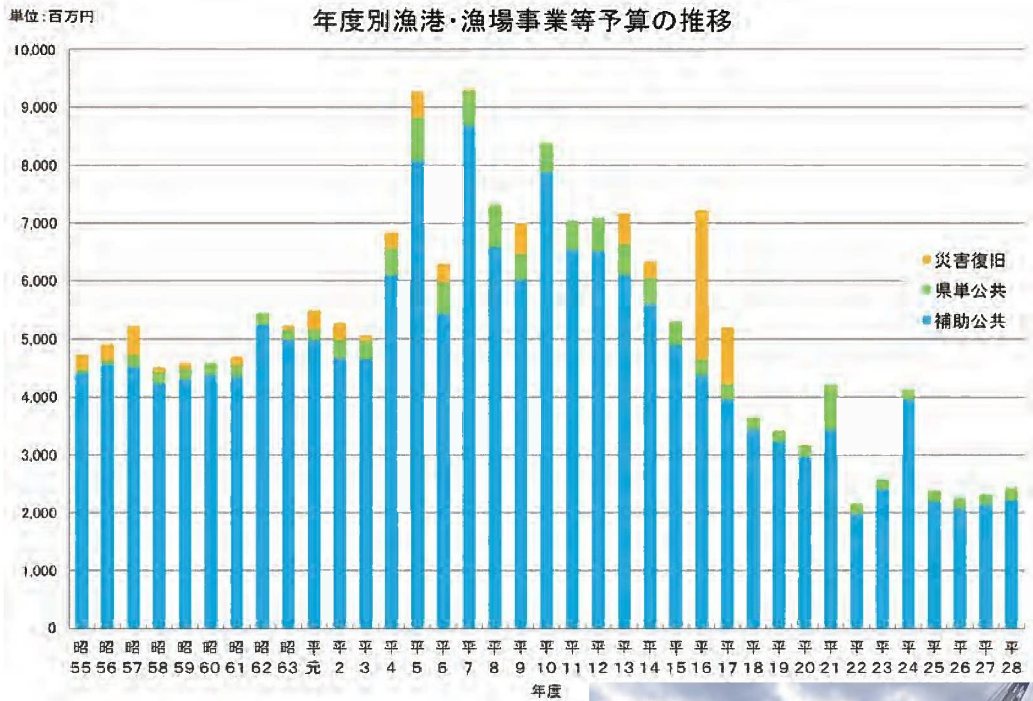
(3) 実施中の海岸事業

<農山漁村地域整備交付金>

海岸施設の老朽化対策や津波・高潮対策を行う。

○県内21漁港海岸（老朽化対策）※

○土々呂漁港海岸（津波・高潮対策）



漁港施設機能強化事業による防波堤の整備（島野浦漁港）



浚渫（川南漁港）



水産物供給基盤機能保全事業による物揚場の老朽化対策工事（油津漁港）

※整備対象施設が多数存在し、図面作成の関係上P7～P29の事業計画平面図には着色無しとしている